

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	45人	算数	45人	理科	45人
第5学年	国語	59人	算数	59人	理科	59人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

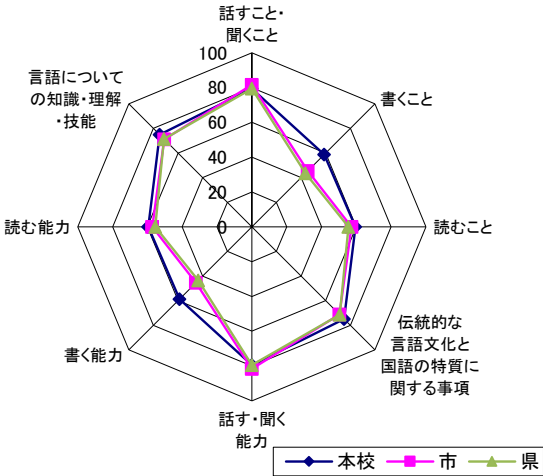
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.4	81.6	79.4
	書くこと	58.7	45.4	43.6
	読むこと	59.5	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	79.4	81.6	79.4
	書く能力	58.7	45.4	43.6
	読む能力	59.5	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	75.0	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

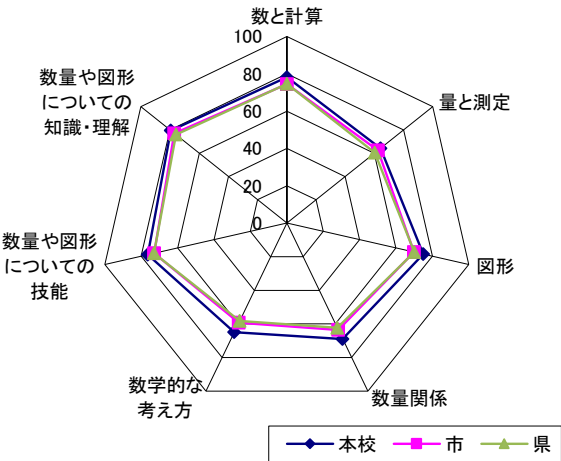
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「司会者の役割を理解し、発言を整理する」では、平均正答率が市の平均を4.5%上回っている。 ●全体の平均正答率では、79.4%と市の平均を2.2%下回っている。 ●「理由を挙げながら筋道を立てて話す」は市の平均を5.7%下回っているが、正しく理解している児童も多く、聞き方、話し方の基礎的な理解に差がある状況である。	・話し合いの機会を多く設け、相手の言いたいことは何かを意識して聞いて意見を述べたり、進行に沿った話し合いをしたりするようにさせるとともに、話の内容をしっかりとらえ集中して考えながら聞く習慣をつける。
書くこと	○平均正答率は58.7%で市の平均を約3%、県の平均を約15%上回っている。 ●「メモを基に、報告レポートに適切な内容を書き入れる」は、市の平均を16.7%上回っているものの、正答率は45.2%と定着が十分とは言えない。	・複数の資料から情報を読み取って、比べたり、適切な言葉を考えたりする力を身に付けさせるために、他教科とも関連させて繰り返し指導していく。 ・自分の考えや感想などの意見を文章で表現する機会を多く設け、書く力をさらに高めていく。
読むこと	○平均正答率は58.7%で市の平均より約2%上回った。 ○「段落の要点をとらえて読む」は正答率が9割以上と、身に付いてきたと言える。 ●「中心となる語や文を捉えて読む」は、正答率が54.8%と、市の平均より2.5%下回っており、読む力の定着が十分とは言えない状況であった。	・読書指導と関連させ、物語を多く読んだり、長文問題に多く触れたりする機会を設け、読む力を高める。 ・授業では、読解の手掛かりになるような語句を自分で見付けられるようにするため、指示語や文脈に気を付けて読む指導を継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率が75.0%と市・県の平均正答率より約4%上回っている。 ○「日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方」は正答率が66.7%と市の平均を22%以上、上回っており、身に付いてきたといえる。 ●漢字の読み書きでは、正答率が9割以上の問題もあれば、「遠足」や「平等」は正答率が5割弱と低かった問題もあるので、文字によって定着に差がある。	・普段から文章を書くときは既習の漢字を使うよう指導し、3年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。 ・授業の中で、国語辞典を使って意味調べをする学習を取り入れ、使い方を復習しながら定着を図る。 ・書写指導において、とめ・はね・はらい等を意識しながら練習できるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.2	74.5	74.6
	量と測定	64.3	62.4	60.4
	図形	75.0	69.9	70.1
	数量関係	69.0	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	64.9	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	76.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	79.6	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

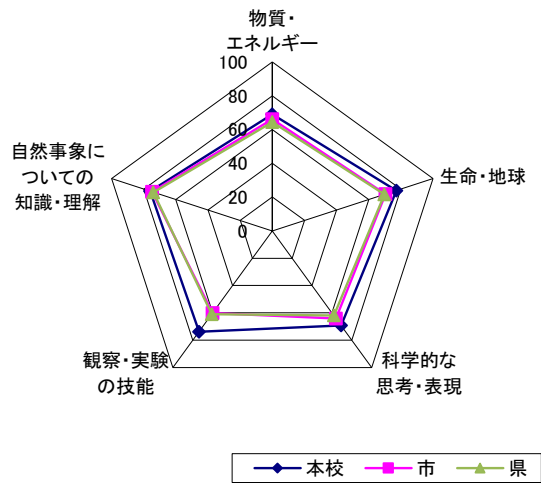
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、78.2%で、市の平均を4%上回っている。 ○「3位数－3位数＝3位数」の繰り下りの計算や、「整数－小数＝小数」の計算は、どちらも90%を超える正答率で、市の平均を約10%上回っている。 ●「3位数＋3位数＝4位数」の繰り上りの計算では、正答率が80%を切り、市の平均より8%低くなっている。	・さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正解を意識した取り組みや間違った問題の分析を自分で行うなどとする。 ・四則計算などの計算力に正確さと速さが十分身に付いていないので、小テストやステップアップシートなどを活用して、正確に計算できる力を身に付けられるようにする。 ・計算力に個人差が見られるので、四則計算など算数の基礎基本となる力は、習熟度別学習などの学習形態を工夫していく。また、発展問題を取り入れるなどして、意欲的に取り組める内容を設定することで、定着を図る。
量と測定	○平均正答率は64.3%と高くはないが、市の平均を2%上回っている。 ○はかりを使って重さを量る問題では、市の平均を11%も上回っており、体験的な学習の成果が表れていた。 ●ドッジボールのおよその重さを予測する問題では、市の平均を約10%下回った。	・日常生活の中で、時刻と時間の概念を十分身に付けられるように、意図的に声かけをするとともに、時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、習熟を図る。 ・重さや長さの問題でも日常生活の中で体感したり、予測したりする経験を増やす。
図形	○平均正答率は75.0%と、市の平均を5%上回っている。 ○円の直径を選ぶ問題や折った紙を切ることができる図形を選ぶ問題で、市の平均を10%以上上回っていた。 ●箱に並べられたボールの半径を求める問題では、市の平均を2%下回り、活用問題で知識を生かすことが十分ではなかった。	・円や三角形については授業で扱う時期も限られているので、プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設けるとともに、応用問題や活用問題を出題し、数学的な思考力を育むようにする。 ・活用問題についてはその解答の方法に慣れるように、単元の終わりなどに計画的に組み入れていく必要がある。 ・基本的事項の確認を定期的に行い、定着を図る。
数量関係	○平均正答率は、69.0%と市の平均を、約5%上回っている。 ○「道の数量を口として、数量関係を表した線分図を選ぶ」問題で、90%を超える正答率であった。また、「余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる」問題では市の平均を12%上回っていた。 ●「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を見つける」活用問題では、市の平均は上回ったものの、正答率が、42%と十分とは言えない状況であった。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・資料の読み取りなどについては、さらなる定着を図るために、算数の時間だけでなく、社会や総合的な学習の時間等、他教科とも連携し、いろいろなグラフから考えられることを読み取る習慣をつけ、それらを意見交換する機会を設けるなどしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.0	66.1	64.4
	生命・地球	77.2	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	69.3	64.1	61.9
	観察・実験の技能	73.8	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	76.0	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、69.0%で、市の平均よりは3%上回っている。 ○基礎問題については、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。 ●実験道具の名前を聞かれ「てんびん」と答える問題で、12.5%下回った。 ●鏡を使って日光を重ねた時の明るさと温度変化を考察し、文章で表す問題では、市の平均から12%も下回った。 ●豆電球のつき方から箱の中の回路を推測する問題は、全問題の中で一番個人差が出ていた問題である。	・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。 ・理科で学習したことで身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。また、実験で得られた結果を、自分の言葉で考察したりまとめたりする活動を、意図的に取り入れていくようにする。 ・学習した内容を生かした装置やおもちゃを作ったり、作ったものの仕掛けを紹介したりという活動を学習の最後に入れることで、楽しみながら学習内容を定着させるなど活動を工夫する。
生命・地球	○平均正答率は、77.2%で、市の平均より7%上回っている。 ○全ての問題で、市の平均正答率を上回っており、個人差はあるものの知識的な内容の定着が高いことが分かる。特に「植物の各部の名称」や「植物の育つ順序」に答える問題では、平均95%の正答率であった。 ○磁石の性質を使っておもちゃを完成させる問題は、活用問題ではあったが、正答率が85%以上となっており、市の平均を大きく上回った。 ●記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する問題では、市の平均と比較して10%上回っているものの、正答率が、59%と低い。	・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。 ・理科で学習したことで身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。 ・上記分類と同様に記述式の活用問題の正答率が低かったため、授業の中でも考察や考えたことを自分の言葉で書く機会を増やす。さらに、文章でまとめさせる際には、キーワードを示し、重要語句を確実に身に付けるとともに、それらを活用し、思考力や表現力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学びの基礎力」の「豊かな基礎体験」では、「家の人と学校のできごとについて話している。」の肯定的回答が約85.7%、「家の人あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」93%、「あなたは家族の大切な一員である」95%と高い。児童は、家庭でコミュニケーションを密にとりつつ、家庭での自己有用感がもてていることがうかがえる。今後も家庭と連携して、児童のより良い成長を目指したい。

○「毎日、朝食を食べる。」「家での決まりや約束を守っている。」などの肯定的回答が90%以上と高い数値を示している。家庭の意識が高く、一人一人が正しい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。反面、「毎日同じ時刻に寝ている。」に対しては、個人差が大きく出ており、今後も家庭と連携し、正しい生活習慣の定着に努めていく。

○「学びの基礎力」の「学びに向かう力」では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答が88.1%、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」の肯定的回答が90.5%と高い結果であった。しかし、やはり個人差があることは否めない。児童が一人ひとりが興味・関心をもって楽しみながら前向きに学習に向かっていけるよう、さらに努めていけるようにする。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答は97.6%、「将来の夢や目標をもっている。」の肯定的回答が95.2%と高く、学習とこれからの自分の将来を関連付けて考えている児童が多い。また、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」では、95.2%の児童が肯定的回答をしており、基礎体験を通して自分の仕事に責任をもっている児童が多いことがうかがえる。

●「学びの基礎力」の「学びに向かう力」の「自分はクラスの役に立っていると思う」や「自分は勉強ができるほうだと思う」については、ともに66.7%と決して高い値ではなかった。今後、一人一人を認め励まし、「できる」や「できるようになってきた」という気持ちがもたせられるように指導に努めていきたい。

●「学びの基礎力」の「自ら学ぶ力」では、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の肯定的回答が50%と低い。本やインターネットを正しく使って学習を進められるよう、情報教育を通して学習スキルを身に付けさせたい。

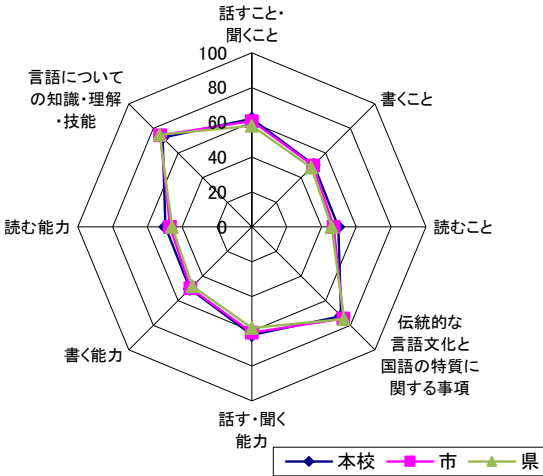
●「社会的実践力」の「問題解決力」では、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の肯定的回答が57.1%と低い。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答も61.9%と低い。この2つの項目については、関連性があると思われる。授業を通して、自分の考えや意見を明確に書けるように支援し、自信をもって発表できる児童を育てていきたい。ただし、人と話すことは楽しいと答えている児童は97.6%と高く、友達としっかりとコミュニケーション力がとれ、豊かな心を育むことができていると感ずる。

●「学級力」では、「クラスは話しやすい雰囲気だ」や「授業では、クラスの友達と話し合う活動をよく行っている」「分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に対しては、平均して90%の肯定回答率であった。しかし、全ての質問において今回の調査結果で中間層に位置した児童の肯定回答率が、低い値を示していた。何らかの因果関係あるものとして、今後注意して観察していきたい。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.1	60.8	58.1
	書くこと	50.3	49.8	48.3
	読むこと	49.7	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.5	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	62.1	60.8	58.1
	書く能力	50.3	49.8	48.3
	読む能力	49.7	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	72.5	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

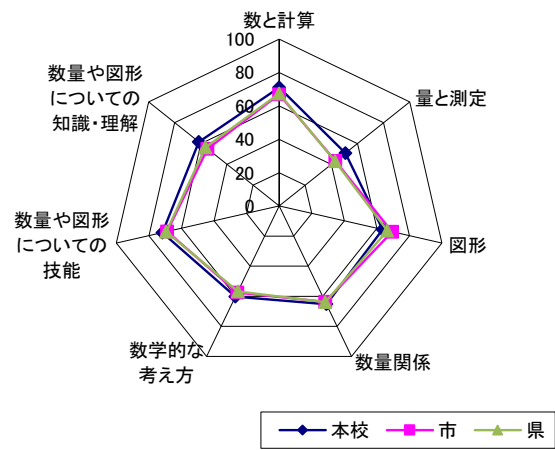
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は62.1%で、県や市の平均を上回っている。 ○「考えの共通点や相違点を理解して話す」という設問では、県や市の平均を9%前後上回っている。 ●「意見の中での共通点を見つけて書く」という設問では、県や市の平均を2%前後下回っている。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等において相手の話を集中して聞く習慣をつける。また、話し手の意図や聞く力の定着を図るとともに、自分の伝えたいことを正しく表現できる力を高められるようにする。 ・話し合い活動において、話し合いの内容の全体をつかんだり、話し合い活動のスキルを高めたりできるようにするために、司会者、提案者、記録者などの役割を経験する機会を設ける。
書くこと	○平均正答率は、50.3%で、県や市の平均をやや上回っている。 ○「内容に合う資料を選ぶ」という設問では、正答率が市とほぼ同じで、79.7%だった。 ●「表を基に説明する」「必要な内容を整理して書く」という設問では、県や市の平均とほぼ同じだが、全体で見ると正答率は低い。	・複数の資料から情報を読み取って、比べたり、適切な言葉を考えたりする力を身に付けさせるために、他教科とも関連させて繰り返し指導していく。 ・自分の考えや感想などの意見を文章で表現する機会を多く設け、書く力をさらに高めていく。
読むこと	○平均正答率は、49.7%で、県や市の平均をやや上回っている。 ●説明的文章においては、「中心となる語を捉える」という設問で20.3%と正答率が低く、その他の設問でも県や市の平均を上回ってはいるが、正答率は50%台と高くない。 ○文学的文章においては、すべての設問において、県や市の平均を上回っている。特に、「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」は正答率が91.5%と高い。	・説明的な文章においては、表現を正確に読み取るための指導として、語句の意味を調べたり段落の構成をとらえたりする活動を行う。さらに、指示語や接続語など読解のキーワードに気付いて読むことを通して、要旨をとらえる力を高められるようにする。 ・日々の授業の中で、叙述に注意して読むことを繰り返し指導することで、心情を読み取る根拠を叙述から見付けられるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、72.5%で、県や市の平均をやや下回っている。 ○漢字の構成やローマ字の読み方については、5%前後、県や市の平均を上回っている。 ●漢字の書き取りや、漢字辞典の調べ方について、10%前後下回った。	・普段から、文章を書くときは既習の漢字を使うよう指導し、4年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。 ・漢字辞典を教室に常備するなどして、漢字辞典に触れる機会を増やす。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.0	66.9	67.4
	量と測定	50.8	43.2	43.0
	図形	63.6	69.4	66.5
	数量関係	65.3	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	60.2	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	71.7	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	61.6	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

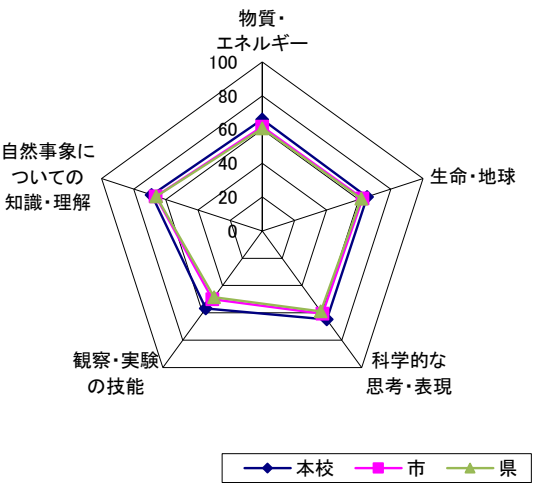
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、71.0%で、市の平均を4.1%上回っている。 ○帯分数－真分数の計算(同分母分数・繰り下がりの)の計算は、市の平均を大きく上回っている。 ●3位数×2位数＝4位数の計算は、市の平均を3.3%下回っている。	・全体としては学習内容がよく身に付いているといえる結果ではあるが、さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正確に解こうとする意識をもち、間違った問題の分析を自分で行うなどする。
量と測定	○平均正答率は、50.8%で、市の平均を7.6%上回っている。 ○「基準量よりも比較量の方が小さい場面では何倍か求める」問題や、「基準量よりも比較量の方が大きい場面では何倍かを求める」問題では、市や県の平均を8%以上上回っている。 ●「数直線上の矢印の値を表す数を分数で表す」問題では、県や市の平均を下回っている。	・面積の単位(m^2 , cm^2 , a, ha)の関係を繰り返し復習させ、身近なものの面積や広さの理解のよりいっそうの定着を図る。 ・「複合図形の面積を求める」問題を、プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設け、習熟を図る。 ・面積を求める過程や立式を言葉で説明する学習を取り入れる。
図形	●平均正答率は63.6%で市から5.8%, 県から2.9%下回っている。 ○「1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶか」では20%, 「はがきのおよその面積を選ぶ」問題では15%, 県や市の平均を上回っている。 ●「与えられた2辺の続きを書いて平行四辺形を完成する」の正答率は、市や県の平均から8%下回っている。	・文章で書かれた問題を理解する力を養うために、授業などで一斉で問題を確認する前に個人で問題を理解する時間を確保する。 ・平行四辺形やひし形、台形等の作図の演習を繰り返し、技能の定着を図ることによって色々な四角形の学習の習熟をさせたい。また、いくつかある作図の方法を場合によって使い分けられるよう反復練習していく。
数量関係	○平均正答率は65.3%で市や県の平均を僅かに上回っている。 ●「ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式に表す」など、数量変化の規則性を見つける問題では、県から5ポイント、市から4.3%下回っている。 ○上記以外の短答式の活用問題については、正答率が県や市の平均を僅かに上回っている。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・単元の終わりにある活用問題を丁寧に取り上げることで、活用問題に対する苦手意識を持たないようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.0	61.7	60.7
	生命・地球	65.2	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	64.8	60.6	58.9
	観察・実験の技能	56.8	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	68.8	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は、66.0%で、県の平均、市の平均を上回っている。 ○「金属の球を温めると輪を通らなくなる理由を説明する」「結果を見通して、実験を構想する」などの問題が活用問題の中でも正答率が市や県より10%以上上回っている。 ○「金属の球を温めると輪を通らなくなる理由を説明する」は正答率が100%で、市や県の正答率を10%以上上回っており、学習内容が十分に定着していると言える。 ○「盛んに泡を出しながら沸き立つことを沸騰とわかる」「光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する」は、正答率が市や県より10%以上上回っていた。 ●「白く見えるものの正体が湯気という液体の水とわかる」の設問においては正答率が低く、県や市の平均を10%下回っている。	・授業の初めに、学習問題をはっきりわかるように提示し、児童と共有することにより、毎時間ごとの学習や実験のねらいをはっきりさせ学習を始めることにより、児童自らが主体的に課題解決に向かえるようにする。また、予想を立てて実験の方法を考え検証していく過程を大切にすることにより、追究・考察・まとめをする段階まで児童の学習への意欲が持続するような授業展開や教材の工夫をしていく。
生命・地球	○平均正答率は、65.2%で、県や市の平均をやや上回っている。 ○「コップの外側に水滴がついた理由を説明する」の問題が活用問題の中でも正答率が市や県より10%以上上回っている。 ○「一日の数時間ごとの月の動きを方位で表す」問題では、市や県の平均を20%以上上回っており、定着していると言える。 ●「オオカマキリの図と同じ季節のカエルやヒョウタンの様子」を聞かれる問題では、どちらも県や市の平均を約15%ほど下回っている。	・身の回りの自然や事象に気付き、その事象一つにとどめず、他の事象と関連付けて観察・表現して、統合された知識となるよう扱い方・まとめの仕方を工夫していくようにする。 ・観察が難しい夜間の天体の観測や、身の回りでは見つけることができない動植物、人体の内部の組織等については、デジタル教材等を活用するなど教材を工夫していく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○どのカテゴリーにおいても、肯定的回答が高く、県の平均を9.5%前後、市の平均を8%前後、上回っている。
○「学びの基礎力」の「豊かな基礎体験」では、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と学習について話をしている」の肯定的回答が94.9%と高く、県や市の平均より8～18%上回っている。家庭で十分コミュニケーションをとることができていることがうかがえる。また「家の人と将来について話すことがある」も、県や市の平均を10%以上上回っているが、肯定的回答は79.7%であり、個人差も大きい。今後も家庭と連携し、現在の活動が今後の自分に生きてくることを、人とかかわりの中から体験できるようにしていきたい。
○「社会的実践力」の「社会参画力」では、「ニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的回答が、市の平均を18%以上上回っており、社会人としての自覚の芽生えがあると思われる。今後も、学校生活・学校行事や地域の行事を通して、集団・社会と積極的に関わりをもとうとする態度を育てていきたい。
○「学級力」では特に「対話力」の肯定的回答が高く、95%を上回るものもある。今後も、話し合い活動において、互いに認め合いながら対話することができるよう学級づくりに努めていく。
○「家庭学習力」においては肯定的回答が72.7%と県や市の平均より6%以上上回っており、「家で、学校の宿題をしている」は98.3%、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」は89.8%と肯定的回答が特に高い。学校と家庭の連携から定着していることがうかがえる。
●「学びの基礎力」の「学びに向かう力」では、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」の肯定的回答は74.6%と県や市の平均を15ポイント高く、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は69.5%で、昨年度より13%上回っており、昨年度の支援の成果が出ていると思われるが、どちらも個人差は大きい。このことから、学習だけに限らず、学校・学級内で役割をもたせたり、粘り強く取り組む姿勢を身に付けられるようにしていく。また、家庭との連携を深め、認め励ます支援をして児童のよさや自分を認める力を高めていきたい。
●「社会的実践力」の「問題解決力」では、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答は57.6%と、県の平均と同等であるが、市の平均をやや下回っている。一方「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」の肯定的回答は69.5%で、県や市の平均を19ポイント上回っている。この2つの項目は関連性があると思われる。授業を通して書く活動を継続して取り入れ、キーワードや文字数など指定された条件などでまとめられるように支援し、自分の考えを自信をもって書くことができる児童を育てていきたい。
●「家庭学習力」においては、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では64.4%と、他と比較すると低くなっている。学力アップ月間を設けたことで、計画的に学習に取り組むことができる児童は増えたが、個人差も大きい。今後も、学校と家庭の両面から見守るとともに、自主学習で予習・復習に取り組むことを進めたり、よい取り組み方を紹介したりするなどしていきたい。

宇都宮市立昭和小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返りの充実	授業の最後に振り返りの時間を確保し、学習の内容を十分理解できるようにする。	「振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が4年生は73.8%、5年生は81.4%と高くなっている。今後も継続していく。
家庭学習の定着	自分の家庭学習の内容や時間を見直したり、計画を立てたりして、家庭学習のさらなる定着を図る。	家庭学習力が4、5年共に市の平均よりも上回っており、家庭学習の定着が見られる。「家で自分で計画を立てて勉強している」では、肯定解答率が74%以上となっており、計画的に家庭学習をする習慣も身に付いてきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
文章を読みとる力の向上	問題内容で聞かれていることを確認する場の設定 文章を最後まで読む活動	文章を最後まで読み取り、キーワードを見つけたり要点をまとめたりする活動を授業で取り入れる。また、初めての文章にも抵抗なく取り組んだり最後まで読み進めたりすることができるように、教科書教材以外の文章を授業で活用したり、様々な分野の本を読むことを勧めたりしていく。
相手の話や文章に対して、自分の考えをもち表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動や場の設定の工夫	学習の振り返りの時間に、キーワードや条件などを設定して書くようにし、書く力の向上に努める。